

『太田いそ研究奨励賞を受賞して』

医療法人 白卯会 白井病院 櫻井佑

この度は、第17回大阪府栄養士会研究発表会において「太田いそ研究奨励賞」を受賞させていただき誠にありがとうございました。

私は、「当院の褥瘡栄養管理症例」について発表させていただきました。

発表内容は①当初食欲不振があり60%の食事摂取量であった患者様が、食事介助時の声かけにより徐々に摂取量がアップし100%になったこと。②摂取量アップに伴いゼリーの個数を増やしエネルギーをアップさせたが摂取量は100%を維持されたこと。により褥瘡が改善された症例です。

今回初めての発表だったので、何度も壁にぶ

つかりめげそうになりました。しかし、栄養科の諸先輩をはじめ医師・看護師の皆様からの励ましもあり発表するに至りました。参加させていただきただけで勉強になりましたが、賞までいただき驚きと喜びで改めて緊張しております。

今後は私自身知識の向上に努め、多職種からの情報により患者様個人にあった栄養管理を考え提案していきたいと思っています。

そして、また発表する事が出来る様、日々業務に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、ご推薦いただきました座長の先生をはじめ関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

『太田いそ研究奨励賞を受賞して』

大阪市立大学 医学部附属病院 栄養部 花山佳子

この度は当院の研究発表「腎臓病教室の効果について」をご評価いただき、太田いそ研究奨励賞を賜りましたことを、関係者の皆様、および結果のまとめ・解析などご協力いただいたすべての方々、また発表の機会を与えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。

当院では以前より腎臓病教室を行ってまいりましたが、開催回数の変更や、内容の見直しを図るなど、新しい体制で運営を始めてから数年の期間を経ていました。本研究は、現在の指導内容で患者がどの程度理解できているのか、そしてその指導が有効であるのかを確認するとともに、今後の改善点など課題を含め検証することを目的としたものでした。

腎臓病教室では、患者の理解度を測るために毎回患者へのアンケートを行っておりますが、高齢者の場合などはそのアンケートの実施自体が困難な場合もあり、特に80代以上の方の回答については今回有効な結果を得られませんでした。それと共に、70才や80才を過ぎてから初めて腎臓食の話しを聞く患者側、そしてその高齢者向けに蛋白質やエネルギーの説明をする

栄養士側の困難さを実感し、栄養指導の早期導入の重要性を改めて強く感じました。

今回のアンケートから、腎臓病教室そのものは有効性ありとの結果を得られたことは成果でした。また年齢別では、40代と50代との間に理解度において有意に差があることを確認できたことが発見でした。これより、食事指導は可能なかぎり40代以前より導入していくことが、その後の患者の食事療法においてより有効であり、その一つとして、昨年度より診療報酬改定された糖尿病透析予防指導の推進などは、その効果が多いに期待できると考えます。早期からの食事指導の必要性を、医師にもご理解・ご協力いただき、また地域への栄養教育活動の活性化へとつながっていくことを期待します。

今回のまとめ・結果により、高齢者向けの指導内容の改善や、説明の簡素化など、腎臓病教室においてさらなる理解度向上を目指します。また今後は、その他の栄養教室や個人指導・栄養管理において、患者のかかえる問題の把握、状態の改善に努めていく所存です。